

だい きやまとし たぶん かきょうせいかいぎ だい かいがいぎろく ようやく  
第4期大和市多文化共生会議 第3回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど  
日時: 2016年4月9日(土)14:00~16:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいがいぎしつ  
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅつせき いん いしま いとうもとみ いのみさと くするみこ  
出席: 委員(石間フロレリサ、伊藤素美、猪野美里、ウプレティ マトリカ、楠瑠美子、  
しらとりせつろう せやまり たかばやしあきこ たのいさいな ふかわたかつね  
白鳥節郎、瀬谷麻里、高林明子、田野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒、  
ふじもとやすお ようせいふん やまと し こくさい だんじよきようどうさんかく か しのぎき みずお こうえきざい  
藤本康男、楊世芬) / 大和市国際・男女共同参画課(篠崎、水尾) / 公益財  
だんほうじんやまと し こくさい かきょうかい さかい たなか こにし いしかわ いじょう めい  
団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上19名

けつせき いん しやうじ ろほんす けいしやうやく  
欠席: 委員(東海林まりえ、駱紅史)(敬称略)

かいぎ  
1 会議テーマについて

いん にほんじん はたら てん ていげん ふく  
○委員:日本人への働きかけ、という点は提言をするものなのかを含めて、よくわからな  
い。

いん  
○委員:テーマがわかりにくい。上に書いてあることと、下に書いてあることではつながら  
ない。「外国人市民が発信するやまとの魅力」と「外国人の社会参画を進めるための  
にほんじん はたら  
日本人への働きかけ」)

いん わたし あ おも か  
○委員:私もあまり合っていないなと思う。テーマを変えてもいいのか。

じむきよく せつてい ないよう か かんが い かた  
○事務局:設定したテーマの内容を変えることは考えていないが、わかりやすい言い方  
にか  
に換えることはできる。

いん にほんじん はたら い かた かん がいこくじん にほんじん おな  
○委員:「日本人へ働きかける」という言い方がきつい感じがする。外国人も日本人も同  
じしゃかい い ふ べつ い かた  
じ社会で生きていることを踏まえた別の言い方はできないか。

いん にほんじん はたら ことば いちほうこうてき かん がいこくじん にほんじん  
○委員:「日本人へ働きかける」という言葉は一方的な感じがする。外国人も日本人  
もおたが い い み すこくわ  
もお互いに生きていくという意味をもう少し加えられたらいい。

いん かいぎ がいこくじん にほんじん にほんじん はたら いち  
○委員:この会議も外国人、日本人がいるわけなので、(日本人への働きかけという)一  
ほうこう とく にほんじん おも にほんじん がいこくじん いっしょ ひと  
方向の取り組みは日本人にとってどうなのかなと思う。日本人も外国人も一緒に一つ  
のテーマに向かっていたらいい。

いん がいこくせきけんみん かいぎ ていげん さんしやう かいぎ とく  
○委員:外国籍県民かながわ会議の提言を参照している。わたしたちの会議で取り組  
みたいことは外国人が社会参画しやすいしくみをつくっていくこと。ここでテーマの文言  
を話し合うよりも、具体的な話し合いをしていきたい。テーマは外国人が社会参画しや  
すしいしくみづくりでいいのではないか。

いん ぜんだん よ がいこくじん し じん しやかいさんかく すす  
○委員:テーマの前段をよく読むとわかるはず。「外国人市民の社会参画を進めていくた  
めにほんじん はたら かい かいぎ わだい  
めの日本人への働きかけ」となっている。これまで2回の会議で話題になってきたこと  
は、どうやら問題は外国人にあるのではなく、日本人にあるのだということ。外国人が

す に ほんしやかい に ほんじん か  
住みやすい日本社会にしていくには、たぶん日本人のメンタリティを変えないとダメ。  
がいこくじん のことをとやかく言うのはいつも日本人の側。これまで2回の会議を踏まえれば、  
もんだい に ほんじん おも わたし おも きかい  
問題は日本人にあると思っているので、このテーマでいいと私は思う。どういふ機会を  
つくって、わけのわからない日本人を説得していくかが問題。圧倒的多数は日本人な  
のだから。がいこくじん おお おお ほう なん か  
外国人はそんなに多くない。大きい方を何とか変えれば、あるいは変えられ  
る可能性があれば、それでいいのではないか。

- 委員：今のお話は資料に書いてある「言い換えると」という表現をめぐめるものかと思う。  
いままでのかいぎでひと い 換 え る と」でもわかるが、「具現化すると」  
ひょうげん かいぎでひと ひょうげん  
という表現にすれば、この会議に出ていない人でもわかる表現になるのではないか。  
テーマはこれでいいと思う。いろいろな方向がある中で、今回の会議では日本人への  
はたら ぐげんか いみ  
働きかけを具現化していくという意味であればいいのではないか。

- テーマはこのままで全体の同意を得た。

## 2 今後の会議の進め方について

- 委員長は府川貴恒さん、副委員長はハゲイ パトリシアさん、楠瑠美子さんに決定。

## 3 意見交換

### 委員長、副委員長から改めて自己紹介

- 委員長：逗子の出身。逗子には横須賀米軍基地の住宅があり、子どものころから外  
がいこくじん みちか そんざい おも しゃかいじん に ほんご  
国人が身近な存在になっていたと思う。社会人になってからはボランティアの日本語  
きょうし がいこくじん に ほんご おし に ほんご きょうしつ けっこん ざい  
教師として外国人に日本語を教えた。日本語教室では、結婚したいけどビザ(在  
りゅうし かく けんしゅうせい らいにち  
留資格)がない、研修生で来日したがパスポートをとられてしまってどうしたらいいの  
わからない、市役所にいきたいけど日本語が話せないといった外国人からの相談を受  
けてきた。ボランティアをしながら困っている外国人が多いことを感じた。今回はこの多  
ぶん か きょうせいかいぎ じぶん ねんかん みな  
文化共生会議で自分のできることを2年間、マイペースで皆さんと一しょにやっ  
きたい。

- 委員：ペルー出身で15年前から大和市に住んでいる。子どもが3人いる。国際化協  
かい に ほんご きょうしつ さんか に ほんご  
会でボランティアや日本語教室などに参加している。日本語はまだまだなので、ちよ  
とサポートしていただけたらありがたい。

- 委員：パラグアイ出身で25年前に来日。来日したときは今ほど日本語ができなかった。  
すうねんかんが ん ば に ほんご べんきょう こくさい かきょうかい しりつびょういん つうやくいん  
数年間頑張って日本語を勉強して国際化協会と市立病院で通訳員をしている。座  
ま そうごうこうこう ご おし ほか た あ  
間総合高校でスペイン語を教えたりもしている。他にマラソングループを立ち上げた。  
マラソンをすることで身体的にも精神的にも元気になった。日本社会はすごくストレス

がたまる。私だけではなく、外国人はストレスを抱えながら毎日過ごしているのではないかと思っている。息抜きができる場所があればいいと思う。

## 外国人の保護者とその子どもたち

○委員長：何かの問題提起をすることが目的ではなく、ある一つの解決策までを考え、実行することをこの会議の役割としたい。どういうテーマ設定でこの会議を進めていくのか、この時間で話し合いたい。さきほど、テーマをめぐって議論があったが、少し中途半端に終わった感がある。個人的には、テーマはあまり気にする必要はないと思う。まずはこのメンバーで何をしたいかを積み上げていけば、外国人の社会参画なり、無関心な日本人を巻き込んでいくなりの結論が見えてくる。わたしたちが話し合うことでゴールが見えてくると思う。みなさんはボランティアとしてこの会議に参加しており、アイデアを出し合うことでどこをゴールとして進んでいくか、道筋を決めていければと思っています。

まずは、わたしが感じていることから話を進めていきたい。外国人の子どもたちの学習の支援体制を見直すことを私からの提案としたい。「見た目が他のみんな(日本人)と違う」、「日本語が話せなくて、みんな(日本人)とうまくコミュニケーションがとれない」、「親が外国人のために日本人の親とのコミュニケーションがとれず、その関係が子どもにも影響を与える」、「日本語力が不足しているために学校の授業についていけない」、「日本語の補習授業を受けているが、別の学校に行って補習授業を受けるために自分は勉強ができないのだという劣等感を背負う」、といった問題を外国人の子どもたちは抱えているのではないだろうか。学校の放課後に外国人の子どもたちなどを対象とした補習クラスを開いてみてはどうか。そこは学校の先生ではなく、ボランティアの力が必要となる。当然、そのクラスには保護者も集まってくるので、そこで外国人の社会参画を考えてみてはどうか。日本人も巻き込んでいく枠組み作りを考えていく。

○委員：わたしは大和で3人の子どもを育てているが、不安に思っていることはない。火曜と金曜、市役所にスペイン語通訳があるので、分からないお知らせがあったときに相談に行っている。特に困っていることはない。

○委員：それが困ることなのだと思う。わたしはこれまで22年間、通訳員として外国人のために書類を書いたり、説明したりしているが、これがあと何年続くのかとも思う。外国人の子どもたちが大きくなって、日本語ができるようにならないと解決しないことかなとも思う。日本の学校はお知らせ、書類が多い。子どもが3人いたら、同じ書類を3まいか枚書かないといけない。そうした日本のシステムは変わらない。4月は小学校、中学校、高校の新一年生の手続きが多くなる時期なので毎年たいへん。書類はできるだ

け本人に書いてもらうようにしているので、一人の子どもの書類を記入するのに、だいたい1時間かかる。ひとつずつ説明しながら書いてもらうが、大和市にはこれだけ多くの国から外国人が来ているので、書類も日本語だけでなく、外国語も用意する必要もあるのかなと思う。国際化協会でもたくさん翻訳をしていることをわたしは知っているが、それが外国人の母親の手元に届いていない。それがすごく残念。母国語の書類があれば、わざわざ仕事を休んで市役所の通訳員に相談に来ることはなくなると思うが、なかなか解決されていない。

また、市立病院には多言語の案内がひとつもない。あるとき外国人に「市立病院にはこれだけ外国人が来ているのに、外国語の案内がひとつもないね」と言われたことがあった。市立病院も役所なので、なかなか要望を受け入れてくれないところがあるが、外国人がほっとする空間があった方がいいと思う。わたしは昨年「DALE ! DALE ! コクサイ」というマラソングループを立ち上げて、外国人もかかりやすい医療機関を増やすためにチャリティ・チャレンジ・ランに取り組んでいる。メンバーが走った距離に応じて寄付金を集め、その他に出資金を募り、昨年は集めたお金で市立病院に英語のフロア案内図を寄贈することができた。外国人をはじめ、このマラソングループの活動には応援してくれる人がたくさんいる。少しずつ変えていければいいかなと思っている。でも、学校のことが一番気ばかり。

○委員：たまたま学校の先生と関わる機会があったが、学校の先生はものすごく忙しい。子どもに教える時間が長いからではなく、書類をつくる時間が長いから。そこで多言語の案内をつくるとなると、またつくる書類が増えてしまう。多言語案内をつくるとしたら、学校の先生ではなく、関心があるボランティアが行うといいと思う。わたしは大和市の多言語市民サポーターに登録しているのだが、何かしらの依頼がきたことはない。ボランティアの協力で多言語対応をしていけたらいいと思う。入学の書類は多くて、しかも1週間で提出しないとイケない。日本人だったら問題ないが、外国人は2週間にするとか、入学前に書類を渡しておくとか、そうした提言を出していければいい。

○委員：質問だが、いま実施している外国につながる子どもに対する支援はどういったものがあるか。

○大和市：各学校に国際教室を設置するなどの対応をしている。

○委員：大和市は放課後に寺子屋をやっている。外国人の子どもがどれくらい参加しているかわからないが、参加できるように外国人の保護者にお知らせしていくべきではないか。せっかく寺子屋ができたのに利用しないのはもったいない。また、各学校にどの国の外国人が何人いるか把握しておいて、多言語の案内をすぐに渡せるように用意しておければいい。毎年同じことを繰り返している。

ぎょうせい がいこくじんたいおう  
行政の外国人対応

○委員：今、日本の仕組みのことで批判が出ている。書類を書いたりするのは、確かにめんどくさい。ただし、人材がいるところはそうでもない。例えば、退職のときに記入する書類などにはマーカーが引いてあって、「ここだけ書いて」などと分かりやすくなっている。これは企業の担当部門があって、しっかり対応しているから。しかし、大和市もそうだと思うが、学校は人材が少ないのでできないと思う。民間企業の場合だと、ここだけハンコを押してくださいなどと分かりやすいことが多い。外国人にだけ不親切なわけではない。人材がいなかったためにできないだけで、外国人だから不便ということではない。もしかしたら日本人の主婦の方だって1時間かけて書類を書いているかも分からない。その意味では(個人の負担は外国人も日本人も)同じ。わかりやすい書類をつくれれば10分くらいで終わるものだが、そこまで手が回らない。わたしはビジネスマンの外国人としか接したことがないので、学校などでどんな問題が起きているのか分からない。前回の会議ではゴミや不動産の問題が出た。日本人だって不動産屋に断られるのではないか。それは外国人だって、日本人だって同じ。わたしにとって、外国人だからダメな場合というのがよくわからない。差別にしても、日本人の場合でも受けている。外国人だから差別を受けるということではないとわたしは思っている。

○大和市：大和市役所では、火曜日と金曜日の午前中に国際化協会のスペイン語通訳員が外国人のために必要な情報を提供するサービスを行っている。先ほど、外国人が子どもの書類のことで通訳を必要としている話が出た。そもそも書類が読めれば、わざわざ市役所に来る必要はないし、そうした手間はかからない。ところが実際は、日本語が読めないし、そもそも届いた書類が何を意味しているかも分からない人もいる。さらには、日本がどういう教育制度なのかも含めてよく分からないので、市役所に来て、通訳員に聞くほかない。そこで通訳員が教育委員会などの各部署に確認をとったりして、ようやく理解できるので、その上で書類を書いたり、その後の対応をとることになる。

○委員：多くの外国人がいる大和市なら、外国人に対応するノウハウはたくさんあるのではないかと。提出書類の翻訳だとか。

○委員：翻訳はあるけれども機能していない。差別ではなく、機能していないという問題意識を持っているので、その点をみんなで話し合ってみるのはどうかと思う。

○委員：今の話は、翻訳はされているのだが、その翻訳データがどこにあるのか分からないという問題ではないか。

○委員：予算のこともあると思うが、せつかく予算もついて翻訳しているものがあるのであ

れば、しっかりと外国人の保護者の手元に届いてほしい。入学前に保護者に渡しておくことができれば子どもを入学させるときの不安も少なくなる。

○委員：入学するときを書く書類はほとんど変わらないものなのか、それとも毎年少しずつ変わるものなのか。

○委員：卒業まで利用するものなど、ほとんど変わらないものもある。

○委員：小学生の子どもがいるのだが、今度、タブレット端末を配ることになっている。各家庭に配るのであれば、その中に外国語の案内を入れて、タブレットで見ることができるようになればどうか。大和市で連携してやる気になればできることだと思う。

○委員：学校に行って、どのくらい翻訳物が活用されているのか調査したらどうだろうか。翻訳物の存在について、学校の先生にどのくらい知られているのか。

○事務局：外国人に情報を届けるために翻訳した案内を行政に手渡しているが、行政の仕事の中では、外国人の存在がうずもれてしまっていると感じる。行政の職員は、外国人がいることにそもそも気付かない。あるいは、翻訳を作った担当者が異動すれば、新しい担当者は翻訳を作成したことを忘れてしまっている。そんな状況はこのテーマにつながるところがあるのではないかと思う。

○委員：今までの話を聞いていると、問題があることはよくわかる。ビジネス上はあまり問題は発生しない。市役所に行く機会も少ない。子どもを持つ外国人を取り巻く課題の解決を探っていくのがいいかもしれない。今はある意味チャンス。4年後の東京オリンピック・パラリンピックを控えている時期で、外国語表記に対する関心が高まっている。ただ、ボランティアに頼るのはおかしいことだと言っておきたい。ボランティアが翻訳して、その翻訳が間違っていたら、誰が責任をとるのだろうか。あとから翻訳がまずかったと言われても困る。ボランティアの力を借りるのはいいが、根本的には行政がしっかりやるべき。

○委員長：日本語しかないと、それだけで外国人は動揺してしまうところがある。われわれがすべきことを考えると、翻訳をPDFにしてホームページにあげるなど、情報提供のあり方を見直すことを一つの提案としてできるのではないだろうか。われわれが取り組んでいくこととして、それがいいのかどうかは別の話だが。

### 外国人の存在に気付かない

○委員：少し脱線した話をするが、先ほど、行政の職員が外国人の存在を忘れてしまうという話があった。やっぱり、多くの日本人は外国人の存在に気づいていないし、多様性の理解がされていない。「日本人への働きかけという言葉が強すぎる」という話も出たが、強制ということではいけないと思う。外国人に接する仕事についている方、例

えば行政の職員などに、外国人の存在を忘れないこと、外国人がどれだけ困っているかを自分で想像できるようにしてはいけない。人の意識を変えるひとつの方法として、シミュレーションとって、疑似体験をする方法がある。かんたんに説明すると、自分の文化とは違う文化に接したときに、自分がどう感じるか、どういう行動をとればよいか、というもの。このシミュレーションを一度実施し、情報発信は多言語でなくてはならない、自分とは全く異なる考え方をする人がいる、といったことに自分で気づく機会をつくってみたらどうだろうか。

- 委員：学校の先生に外国籍の子どものことをいねいに説明しても、先生は異動が多くて、担当者が代わってしまうとまた最初からやり直しになってしまい、前任後任の引き継ぎがほとんどない。それがすごく残念でもったいないと思う。大和市には多くの外国人の子どもがいるが、それに気付かない。外国人の子どもは、その子どもの親の母国を学習テーマにできたり、いろんな可能性をもっていたりして、宝だと思うが。
- 委員：小学校の放課後ひろばで働いているが、外国人の子どもはわかりづらいと思う。顔立ちが日本人と違えばまだわかるが、アジア系だとほとんどわからない。わたし自身何人も子どもを見てきて、ずっと日本人だと思っていた子どもの母親がある日たまたまやってきて、外国人だったのでびっくりしたことがある。
- 委員：わたしにも子どもがいて、日本で生まれたが今は母国にいる。いつか呼び寄せたいと思っている。わたしは日本語ができるので、子どもを持つ友人から学校からのお知らせを読んでほしいと頼まれることがある。子どもだけでなく、親の問題もあることを今感じている。例えば、マイナンバーなど新しい制度について、友人からこれは何だと聞かれるのだが、自分もよく分からないので市役所で聞いてきてとお願いしても、日本語ができないので通訳として一緒にきてほしいと頼まれる。子どもの課題、親の課題を整理して、今後の会議でしぼっていつてみてはどうかと思う。
- 委員長：外国人の子どもに対するサポート、案内表示がわかりにくいこと、それから民間企業でも同じことだが、担当者同士でやりとりしてしまう引き継ぎの問題、タブレット端末に翻訳をおくこと、などが話に上がった。情報ツールの課題の部分ではわれわれから行政に提言できることがあるのではないだろうか。

## この会議を通して学びたい

- 委員：行政の職員などをお招きして、どのくらい外国人への対応が行われているか教えていただき、でも行政がやっていることを市民は知らなかったりするので、お互いにはなあばお話をあつたらいと思。フィールドワークを行ったり、さきほどのシミュレーションの話などもしていただきながら、われわれも学び、相手も学ぶような会議の進め

かた おも  
方をしていけたらいいと思う。

○委員長：行政の方はどういった方を呼べばいいのか。

○大和市：おそらく具体的な話が出てきてからの方がいいと思う。

### 外国につながる子どもたちを取り巻く状況

○委員：夜間の公立高校のことで気になることがある。通学している外国につながる子どもたちは日本語の日常会話はできるのだが、読み書きができず、また補習するような時間やチャンスがないとのことだった。親も働くことで精一杯でフォローしてあげられるような経済力や時間も無い。結局、進学できず、就労の機会も限られてくるという問題を聞いたことがある。外国人であっても専業主婦であればパソコンを使ったりして子どもをフォローできると思うが、日本語を必要としない職場で両親ともに仕事をしている場合だと、子どもの世話をする時間がそもそも限られてくる。事情はよくわからないが、その辺をテーマにしてもいいのではないか。

○委員：さきほどタブレットを使った情報提供の話が出た。わたしは多くの外国人に接してきたからわかるが、パソコンを使うスキルがない人が多い。クリニックで働いているのだが、子どもたちが心配。親が病気になると、子どもは学校に行かず、親の通訳でクリニックに来ることがある。それが一番困る。また、自分が翻訳したはずの文書が外国人の保護者に届いていないこともあった。入学に関する文書だったが、中学校の先生にたずねてもよくわからないとのことだった。そうした場合はどうしたらよいか。

○委員長：子どもが日本語を習得するようになると、父親、母親と母語でコミュニケーションがとれなくなってしまう心配も出ている。

○委員：ペルーの方に多く見受けられる傾向がある。親はスペイン語を話し、子どもは日本語を話すようになるので、コミュニケーションがむずかしくなってしまう。

○委員：このテーマは何年も前から話してきた。外国人の子どもは、日本人の集団の中で成長していくにつれ、外国人であることがすごく恥ずかしいと感じるようになる。アイデンティティの問題もあり、子どもたちは日本人になりたいという気持ちが強くなる。自分が外国人だということをオープンにできれば、もっと気持ち良く日本人と同じ集団の中で生活できるようになると思う。さきほどの子どもたちの学習に関するお話もずいぶん前から指摘されてきた問題。例えば、すたんどばいみーやエステレージャなど、大和市内にはいくつか外国人の子どもたちの学習を支援する団体やグループがある。学校には国際教室もある。だけでも、勉強する量がすごくたくさんあるので、追いつかない。たぶん、外国人も日本人も同じだが、小学3年生くらいまでの漢字などの基礎をきちんと身につけておかないと、4年生、5年生になると急にレベルが高くなるので、勉



強<sup>きょう</sup>しても追<sup>お</sup>いつかない。中<sup>ちゅう</sup>学<sup>がく</sup>に入<sup>はい</sup>ると、さら<sup>こ</sup>にむずかしくな<sup>こ</sup>って、高<sup>こう</sup>校<sup>こう</sup>受<sup>じゅ</sup>験<sup>けん</sup>を乗<sup>の</sup>り越<sup>こ</sup>えなくてはならない。学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>の先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>の中<sup>なか</sup>には、日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>語<sup>ご</sup>の日<sup>に</sup>常<sup>じょう</sup>会<sup>かい</sup>話<sup>わ</sup>ができてい<sup>も</sup>るので問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>な<sup>い</sup>と考<sup>かんが</sup>えてい<sup>か</sup>る方<sup>かた</sup>もた<sup>か</sup>くさ<sup>かい</sup>んい<sup>わ</sup>る。会<sup>に</sup>話<sup>ほん</sup>が<sup>ご</sup>でき<sup>に</sup>るから日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>語<sup>ご</sup>が<sup>に</sup>でき<sup>に</sup>るわけ<sup>に</sup>では<sup>い</sup>ないこと<sup>こと</sup>を<sup>すこ</sup>も<sup>う</sup>少<sup>すこ</sup>し学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>の先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>にも理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>して<sup>り</sup>た<sup>り</sup>だ<sup>り</sup>か<sup>り</sup>ないとい<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ない。

○委員<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>：わ<sup>も</sup>た<sup>と</sup>し<sup>ちゅう</sup>は<sup>が</sup>元<sup>げん</sup>中<sup>ちゅう</sup>学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>の教<sup>きょう</sup>員<sup>いん</sup>で国<sup>こく</sup>際<sup>さい</sup>教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>の担<sup>たん</sup>当<sup>とう</sup>も<sup>も</sup>して<sup>し</sup>た。み<sup>み</sup>な<sup>な</sup>さん<sup>さん</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>お<sup>お</sup>っ<sup>っ</sup>し<sup>し</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>る<sup>る</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>は、そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>違<sup>ちが</sup>う<sup>う</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>だ<sup>だ</sup>が、現<sup>げん</sup>状<sup>じょう</sup>と<sup>と</sup>して<sup>して</sup>は<sup>は</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>現<sup>げん</sup>職<sup>しょく</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>に<sup>に</sup>一<sup>いっ</sup>生<sup>しょう</sup>懸<sup>けん</sup>命<sup>めい</sup>や<sup>や</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>通<sup>つう</sup>じ<sup>じ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>な<sup>な</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。入<sup>にゅう</sup>学<sup>がく</sup>前<sup>まえ</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>ク<sup>く</sup>ラ<sup>ら</sup>ス<sup>す</sup>に<sup>に</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>ど、職<sup>しょく</sup>員<sup>いん</sup>会<sup>かい</sup>議<sup>ぎ</sup>で<sup>で</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>ざ<sup>ざ</sup>な<sup>な</sup>検<sup>けん</sup>討<sup>とう</sup>を<sup>を</sup>重<sup>かさ</sup>ね<sup>ね</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る。し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>し、突<sup>とつ</sup>然<sup>ぜん</sup>入<sup>にゅう</sup>学<sup>がく</sup>して<sup>して</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>ども<sup>も</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>る。準<sup>じゆん</sup>備<sup>び</sup>が<sup>が</sup>でき<sup>き</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で、担<sup>たん</sup>任<sup>にん</sup>も<sup>も</sup>び<sup>び</sup>つ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>う。大<sup>やま</sup>和<sup>と</sup>市<sup>し</sup>は、ノ<sup>の</sup>ー<sup>の</sup>マ<sup>ま</sup>ラ<sup>ら</sup>イ<sup>い</sup>ゼ<sup>ぜ</sup>ー<sup>の</sup>シ<sup>し</sup>ョ<sup>よ</sup>ン<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>意<sup>い</sup>識<sup>し</sup>が<sup>が</sup>強<sup>い</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>か、外<sup>がい</sup>国<sup>こく</sup>人<sup>じん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>意<sup>い</sup>識<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>せ<sup>せ</sup>ない<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>な<sup>な</sup>傾<sup>けい</sup>向<sup>こう</sup>が<sup>が</sup>見<sup>み</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>る。授<sup>じゆぎょう</sup>業<sup>ぎょう</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>出<sup>だ</sup>して、個<sup>こ</sup>別<sup>べつ</sup>学<sup>がく</sup>習<sup>じゅう</sup>した<sup>した</sup>方<sup>ほう</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>場<sup>ば</sup>合<sup>あい</sup>で<sup>で</sup>も、ク<sup>く</sup>ラ<sup>ら</sup>ス<sup>す</sup>で<sup>で</sup>一<sup>いっ</sup>緒<sup>しょ</sup>に<sup>に</sup>勉<sup>べん</sup>強<sup>きょう</sup>した<sup>した</sup>方<sup>ほう</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>方<sup>ほう</sup>針<sup>しん</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>で、そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>辺<sup>へん</sup>は<sup>は</sup>教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>会<sup>かい</sup>に<sup>に</sup>も<sup>も</sup>聞<sup>き</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>み<sup>み</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>たり<sup>り</sup>す<sup>す</sup>る。日<sup>にち</sup>常<sup>じょう</sup>会<sup>かい</sup>話<sup>わ</sup>が<sup>が</sup>でき<sup>き</sup>る、と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>細<sup>こま</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>ニ<sup>に</sup>ュ<sup>に</sup>ア<sup>あ</sup>ン<sup>ん</sup>ス<sup>す</sup>は<sup>は</sup>わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ない<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る。や<sup>や</sup>は<sup>は</sup>り、大<sup>やま</sup>和<sup>と</sup>市<sup>し</sup>の<sup>の</sup>教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>シ<sup>し</sup>ス<sup>す</sup>テ<sup>て</sup>ム<sup>む</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>ない<sup>い</sup>と<sup>と</sup>わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ない。書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>に<sup>に</sup>関<sup>かん</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>と、ど<sup>ど</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>で、ど<sup>ど</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>不<sup>ふ</sup>要<sup>よう</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ない。

○委員<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>：ほ<sup>ほ</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>ど<sup>ど</sup>ゴ<sup>ご</sup>ミ<sup>み</sup>(不<sup>ふ</sup>要<sup>よう</sup>)と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る。い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>、全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>読<sup>よ</sup>んで<sup>で</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>ない。こ<sup>こ</sup>う<sup>う</sup>した<sup>た</sup>書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>をつ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>る<sup>る</sup>時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ば、先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>子<sup>こ</sup>ども<sup>も</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>指<sup>し</sup>導<sup>どう</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>別<sup>べつ</sup>の<sup>の</sup>時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>を<sup>を</sup>与<sup>あた</sup>えて<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>たい。ど<sup>ど</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>か<sup>か</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ない<sup>い</sup>か。

○委員<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>：正<sup>しょう</sup>直<sup>じき</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>と、パ<sup>ひ</sup>キ<sup>ま</sup>ス<sup>い</sup>タ<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>は</sup>毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>を<sup>を</sup>持<sup>も</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>わ<sup>わ</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>へ<sup>へ</sup>や<sup>や</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>る。任<sup>にん</sup>意<sup>い</sup>の<sup>の</sup>保<sup>ほ</sup>険<sup>けん</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>か、不<sup>ふ</sup>要<sup>よう</sup>な<sup>な</sup>書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>が<sup>が</sup>多<sup>おほ</sup>い。ち<sup>ち</sup>よ<sup>ま</sup>つ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>待<sup>まつ</sup>っ<sup>っ</sup>て、と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>説<sup>せつ</sup>明<sup>めい</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>に<sup>に</sup>1<sup>じ</sup>時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>終<sup>しゅう</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ない。

○委員<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>：学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>は、モ<sup>たい</sup>ン<sup>さく</sup>ス<sup>た</sup>ー<sup>ふ</sup>パ<sup>ふ</sup>ア<sup>しよ</sup>レ<sup>しよ</sup>ン<sup>るい</sup>ト<sup>るい</sup>対<sup>たい</sup>策<sup>さく</sup>な<sup>な</sup>の<sup>の</sup>か、不<sup>ふ</sup>要<sup>よう</sup>な<sup>な</sup>書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>をつ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>さ<sup>さ</sup>れて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>現<sup>げん</sup>実<sup>じつ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か。

○委員<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>長<sup>ちやう</sup>：今<sup>いま</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>の<sup>の</sup>話<sup>わ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>ると、学<sup>が</sup>校<sup>こう</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>配<sup>はい</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>が<sup>が</sup>多<sup>おほ</sup>い、と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>指<sup>し</sup>摘<sup>てき</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>た。こ<sup>こ</sup>う<sup>う</sup>した<sup>た</sup>書<sup>しよ</sup>類<sup>るい</sup>に<sup>に</sup>対<sup>たい</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>改<sup>かい</sup>善<sup>ぜん</sup>案<sup>あん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>ず<sup>ず</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>る。そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>か<sup>か</sup>ら、引<sup>ひ</sup>き<sup>つ</sup>継<sup>ぎ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>など<sup>ど</sup>行<sup>ぎょう</sup>政<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>シ<sup>し</sup>ス<sup>す</sup>テ<sup>て</sup>ム<sup>む</sup>を<sup>を</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>直<sup>なお</sup>した<sup>した</sup>方<sup>ほう</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>点<sup>てん</sup>。ま<sup>ま</sup>た、案<sup>あん</sup>内<sup>ない</sup>表<sup>ひょう</sup>示<sup>じ</sup>の<sup>の</sup>問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>。日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>語<sup>ご</sup>が<sup>が</sup>でき<sup>き</sup>ない<sup>い</sup>人<sup>ひと</sup>が<sup>が</sup>病<sup>びょう</sup>院<sup>いん</sup>に<sup>に</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>っ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>漢<sup>かん</sup>字<sup>じ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>し<sup>し</sup>か<sup>か</sup>ない<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で、せ<sup>せ</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>な<sup>な</sup>ど<sup>ど</sup>アル<sup>あ</sup>ル<sup>る</sup>ファ<sup>ふ</sup>ベ<sup>べ</sup>ツ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>文<sup>もん</sup>字<sup>じ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>安<sup>あん</sup>心<sup>しん</sup>感<sup>かん</sup>に<sup>に</sup>も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>な<sup>な</sup>が<sup>が</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か。子<sup>こ</sup>ども<sup>も</sup>の<sup>の</sup>教<sup>きょう</sup>育<sup>いく</sup>に<sup>に</sup>関<sup>かん</sup>し<sup>し</sup>て、も<sup>も</sup>ち<sup>ち</sup>ろ<sup>ろ</sup>ん<sup>ん</sup>い<sup>い</sup>ろ<sup>ろ</sup>んな<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>々<sup>た</sup>が<sup>が</sup>サ<sup>さ</sup>ポ<sup>ポ</sup>ー<sup>お</sup>ト<sup>も</sup>して<sup>して</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>う<sup>う</sup>が、低<sup>てい</sup>学<sup>がく</sup>年<sup>ねん</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>の<sup>の</sup>ほ<sup>ほ</sup>か、就<sup>しゅう</sup>労<sup>らう</sup>支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>に<sup>に</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>情<sup>じょう</sup>報<sup>ほう</sup>提<sup>てい</sup>供<sup>きょう</sup>を<sup>を</sup>含<sup>かんが</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>た<sup>た</sup>方<sup>ほう</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>で<sup>で</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か、と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>話<sup>わ</sup>が<sup>が</sup>出<sup>だ</sup>た。こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なか</sup>で、課<sup>か</sup>だ<sup>だい</sup>を<sup>を</sup>整<sup>せい</sup>理<sup>り</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>た<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>で<sup>で</sup>何<sup>なに</sup>が<sup>が</sup>でき<sup>き</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>を<sup>を</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup>たい。

○委員<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>長<sup>ちやう</sup>：委<sup>い</sup>員<sup>いん</sup>長<sup>ちやう</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>っ<sup>っ</sup>し<sup>し</sup>ゃ<sup>ゃ</sup>る<sup>る</sup>通<sup>とお</sup>り<sup>り</sup>だ<sup>だ</sup>が、言<sup>い</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>り、聞<sup>き</sup>い<sup>い</sup>たり<sup>り</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>だ<sup>だ</sup>け<sup>け</sup>で<sup>で</sup>終<sup>しゅう</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ず、一<sup>いっ</sup>つ<sup>つ</sup>ず<sup>ず</sup>つ<sup>つ</sup>解<sup>かい</sup>決<sup>けつ</sup>案<sup>あん</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>出<sup>だ</sup>さ<sup>さ</sup>ない<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>け<sup>い</sup>ない<sup>い</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>う。

#### 4 スケジュールの<sup>かくにん</sup>確認

じ かい かい ぎ がつ にち ど おな し やくしよぶんちやうしや かい かい ぎ しつ おこな  
次回の会議は6月11日(土)14:00～、同じ市役所分庁舎2階会議室で行う。

かい ぎ お し だい ご ご じ こんしんかい おこな  
また、会議が終わり次第、午後5時ころより懇親会を行う。

い じょう  
以上